

熊本大学病院長 馬場 秀夫



この四月一日
付けで熊本大学
病院長に就任い
たしました消化
器外科の馬場秀

夫と申します。私は一九八四年（昭和五十九年）に熊本大学医学部を卒業後、九州大学の第二外科（現 消化器総合外科）と関連病院で外科医としての研鑽を積み、二〇〇五年より熊本大学消化器外科の初代教授として着任し、以来十六年にわたり消化器外科の外科診療、研究・教育に取り組んで参りました。この間、八年間にわたり診療、経営、教育、地域連携担当の副病院長を経験し、その経験を基に病院長を拜命することとなりました。

COVID-19の世界的蔓延で、医療を取り巻く環境はこの一年で大きく変化し、大学病院でも新型コロナウィルス感染症の重症患者を受け入れることになり、経営が厳しい状況の中での病院長就任となりました。現在、第五波の渦中にありますが、変異株が主体であるため、感染力が強く、重症化しやすく、若年者も感染するという特徴のため、熊本市では医療が逼迫する状況が続いています。ワクチン接種が進

み、このパンデミックが一日も早く収束することを願わざるを得ません。

さて、熊本大学病院は、県内唯一の特定機能病院ですので、先進的な高度医療に取り組みながらも、地域における最後の砦として、さまざまな基礎疾患を有し他の医療機関では治療困難な症例の治療を担うと同時に、研究の推進により新たな診断・治療法の開発に取り組み、教育機関として次代を担う優秀な医療人を育成する責務を負っています。したがって、熊本大学病院が熊本県の地域医療の発展に大きく関与しており、病院長として、その責務の大きさを実感しながら、日々職務を遂行しているところです。

肥後医育振興会は、細川重賢公が開設した再春館に源を発した二百六十余年にわたる肥後医育の歴史と伝統を守り、更に大きく発展させる目的で様々な活動を展開されています。「肥後医育塾」などの開催を通じて県民に医学・医療の最前線の情報を提供し、研究・教育活動への支援、国際シンポジウム開催の支援など、その活動は多岐にわたたり、小生もこれまで大変お世話になってきました。今後もこれまでの活動をさらに発展させていただきたいと

願っておりますが、中でも、医学教育・研究の助成に力を注いでいただけると有難いと思います。

昨今、医学研究開発のスピードは極めて速く、また、国際競争が一段と厳しさを増す中で、若手研究者が十分な研究資金を獲得し、かつ恵まれた環境で研究することが困難になりつつあります。そのような中、この熊本から新たな診断・治療に役立つ研究成果を世



熊本大学大学院生命科学部
熊本大学大学院医学教育部長・医学部長

山 縣 和 也

界に向け発信するためにも、肥後医育振興会が大きなサポートを担っていただければと期待しています。
今後、病院長として、心身ともに辛い思いをされている患者様に誠心誠意、最良の医療が届けられる大学病院であり続けられるよう努力して参る所存です。皆様におかれましては、是非ともご理解と温かいご支援を賜りますようお願いよろしくお願い申し上げます。

二〇二〇年度はCOVID-19による災禍に見舞われた未曾有の一年であり

命科学研究部長・医学教育部長・医学部長を拝命しました山縣和也と申しますが、その重責に身が引き締まる思いですが、命科学研究部・医学部の更なる発展のために貢献したいと考えております。

ましたが、公益財団法人「肥後医育振興会」の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申しあげます。創立以来、二十五年以上の長きにわたり県民の健康増進の普及、地域医療の向上にご尽力されておりますことに深く敬意を表します。また本学の若手研究者に対する研究助成や外国人留学生奨学助成、学術集会支援など熊本大学における研究・教育の発展にも多大なご支援を賜り、心より感謝申し上げます。私は、二〇二一年四月より生

生命科学部・医学部の使命は、①研究活動を通じて世界をリードする独創的な知を創出し、社会や人類の福祉に貢献すること、②地域や世界で活躍する次世代の人材を育成することであると考えます。運営交付金の削減とそれに伴う業務の負担増加など大学を取り巻く環境は大変厳しいものとなっておりますが、このような状況下においても研究をさらに発展させるために重要なことは、各人が自らのアイデンティ